

お客様訪問

【栃木県小山市、いちご農家様】

令和4年8月からご使用を開始された栃木県小山市のいちご農家様に令和5年3月28日にお話を伺ってきました。

「今年は今までで1番採れてる!!「暑くなってきたけどこれからも頑張って採るよ!」と有難いお言葉を頂きました。

樹の状態も素晴らしく、視察訪問に参加された販売店の方も驚いていました。

6月初旬に改めてお話を聞きました。

「今年は10~15%前年より売上が上がっていると思う。思い切って装置を買って良かったよ!次作は苗からも使い、もっと取れる使い方を考えてやってみたい。」
うれしいお言葉に感謝いたします。



【東北大学、高橋正好教授と農家様の視察訪問を実施】

当技術の開発者の一人でもある「東北大学、高橋正好教授」とお客様への聞き取り巡回訪問を実施しました。当商品を長く使用をされている農家様ではナノバブル水の利用が様々な用途で使われている方が増えている方が増えており、現場での使用方法について調査を行いました。

「灌水」はもちろん「液肥」、「葉面散布」、「農薬散布」、「ミスト」様々な用途での使用方法や使用した際の効果実感などについて教えて頂きました。実際に使われた現場の生の声は大変、貴重です!

頂いた情報を研究機関などと共有をし、より良い使い方として今度は農家様に還元できる情報に繋げさせていただきます。

浜田バラ園様、すぎやまいちご園様、ご協力、ありがとうございました!



平塚市「浜田バラ園」様



平塚市「すぎやまいちご園」様

地域活動 (JA様情報)

【JAふじ伊豆】

静岡県 JAふじ伊豆伊豆の国莓委員会では、健全な親株の安定生産と供給体制を強化するために、親株増殖施設に当社のナノバブル水製造装置を導入して頂きました。

同施設の生産管理者からは「親株の生育は順調で、病気の発生も少ない。」

「例年以上に健全な苗が育っているため、親株育成だけでなく、生産者が各自の生産管理に活用して行って欲しい。」JA営農アドバイザーの方とも連携して、生産者への使用も促してくれています。定植後はもちろん、苗づくりにもナノバブル!

(JAグリーンプラザ伊豆の国では「根活K-20L」を店頭にて取り扱いをしています。)



【JA香川県】

JA香川県仲多度地区ミニトマト協栄部会様で令和5年4月に導入を頂きました。部会で装置を購入いただき、部会員(13件)皆様でご利用を頂きます。

こちらの部会では令和4年に部会長自らがテスト的に使用をはじめられて、効果を確認して頂きました。

「春先の萎れ影響が少なく、品質もへた落ちが減少し、収量も品質も向上した。部会員皆で使って、部会の生産性を上げたい。」と部会を説得し、導入を頂きました。これからの収穫量に期待をされています。部会の皆さんでのご活用をこれからも支援させていただきます!



【JAほこた】

茨城県のJAほこた様では7年前にいちご部会の方が使用され始めてからお付き合いが始まりました。現在ではほうれん草、水菜などの農家様を含めて計30台の装置を納入させて頂いています。

昨年にはJA様の敷地内に看板を設置し、当社の活動にもご協力を頂いています。

近隣のJA様にもお声掛けを頂き、当社の活動の場を拡げることが出来ています。

地域との連携した取り組みを通して、ナノバブルの普及を進めさせて頂いています。



お知らせ

【装置のラインナップが増えました!】

ナノバブル水製造装置の種類が増えました。「10a~100a(1反~1町)」、作付面積からお選びいただけます。また、「土耕栽培」や「養液土耕栽培」、「養液かけ流し栽培」、「水耕循環式栽培」など、ご使用される栽培環境に応じて自動機能などの仕様変更のご相談も承ります。

お客様のご用途に応じてご提案をさせていただきます。詳しくは当社までお問合せ下さい。

NEGSシリーズ (自動ナノバブル水製造装置)			
A50-SH	A100-SH	A200-SH	A300-SH
			
10~20a	20~40a	40~70a	70a~

【メンテナンスについてのご案内】

装置をご購入され、長くご愛用頂いているお客様からはメンテナンスのご要望を受けています。特に初号機(「根活製造機 EMGS-Y03」)をお使いの方で商品にお気づきの点がある場合にはご確認を頂きますようお願い致します。



空気調整ユニット



バブルカウンター



(根活製造機)

(注意のポイント)

- ・水漏れ
- ・ポンプの異音
- ・バブルカウンターの変化
- ・空気調整ユニットの不具合

病気に強くなる！
収穫量が増える！
品質が良くなる！



お客様の声



成り疲れの回復が早い！
根の動きが良い！
肥料吸収が良い！

神奈川県平塚市 杉山圭一様

ご利用開始：2014年12月
取材日：2022年7月



杉山様からお話を頂きました。

「知り合いの紹介で使い始めましたが、実際に使用してみると『何かいちごが違うな』と感じました。生き生きとしているし、パワーがある感じを受けました。収量は間違いなく上がっています。観光なので感覚になりますが、5～10%くらいでしょうか。ミストにも使っていて、詰まらないどころか改善されたノズルもありました。苗への効果は分かりやすいです。育苗期間中に継続して使用し続けると、定植が近くなるころにははっきりと効果が分かります。具体的には**液肥の効き**が明らかに良いです。例えば当農園では、ナノバブル水を使用する前は葉面散布をする際の液肥のECは0.8 mS/cmくらいまで上げていましたが、ナノバブル水を使用するとECが0.5 mS/cmでも効きます。ちなみに今はECが0.5 mS/cm以下で運用してるほどです。ナノバブル水は肥料が少なく済む、肥料の効きが良い、これが分かりやすい効果だと思います。今では手放せない資材になりました。灌水も葉面散布も農薬散布もミストも、何でも必ず混ぜて使っています。効き過ぎることもあるので、濃度を調整しながら使っています。繁忙期に体調を崩して入院したことがあったのですが、そのシーズンはナノバブル水を使用しませんでした。シーズンが終わった時に「やっぱりいつもと違う、ナノバブル水を使わないとダメだな」と思いました。仲間には薦めていて、けっこう導入しました。ある程度栽培に限界が来ている方、『もう少し収量伸ばしたい』、『もう少し良い樹をつくりたい』、『もう少し良い作物をつくりたい』と思っている方にはおすすめです。より良くしたい方の**最終手段**ですね。」

茨城県鉾田市 鎌田充貴様

ご利用開始：2016年3月
取材日：2022年11月



鎌田様からお話を頂きました。

「11月の中旬頃の2次腋花房の花が出る時にチップバーンが発生していました。特に私の農場では多肥栽培をしているため樹勢が強くなる傾向があります。そのためチップバーンも出やすくなるんです。それがすごく悩みました。その悩みを肥料を購入している業者さんに相談したところ、『**根活**を使うようになってからチップバーンが減った」という話を耳にして使用を始めました。最初は「こんな水みたいのが効くのか？」と不安でしたが、使ってみるとチップバーンが劇的に減りました。それと**根張りが良くなりますね。葉面散布に混ぜても効果が出ている気がしますね。**葉面散布は見えないのでうまく表現することはできないのですが、付着した微量な液肥が葉にしっかり馴染んでいる効果があると感じています。ナノバブル水は色々なものを**通常50%しか効果が出ないところを80%まで効果**を上げるような一つのアイテムというイメージで使用しています。根張りが良くなったことで収獲量も上がりました。間違いなくプラスにはたらいっていると思います。使い続ければ効果は必ず出ます。「もっと効果を高めたい」とか技術がある人ほど求めている装置だと思います。例えば環境が厳しい時に、いかに「吸えないリン酸やカルシウムを吸わせるか」という時は一つの良いアイテムですね。環境ストレスがあった時に通常だとダメージを受けるかと思いますが、ダメージが少なくなる手助けをする資材だと思います。根張りが良ければ環境ストレスがあっても持ちこたえられますよね。夏場の苗にも効果靚面です。周りの仲間もほとんど使っています。導入をおすすめしますよ。」

『全国、様々な作物でご利用を頂いています！』

■神奈川県（バラ）
浜田様
[使用開始：2015年6月]



「最初は灌水混ぜて使用していたが、剪定後の生育や厳寒期の花の成長が良いと感じた。農薬散布時にも使用したところ、農薬の混ざりが良く、薬の効果が均等に効いている感じを受け、農薬の使用量を減少させることができた。製造装置を購入してからは使う水にはどれでもナノバブル水を入れている。」

■山梨県（トマト）
佐々木様
[使用開始：2013年7月]



「使っていると玉伸びが良く、収量が落ちない。2年程『根活20L』を使って効果を実感したので、継続的に使うために製造装置を購入した。近隣生産者の収量が落ちている時でも収獲量が安定しているので、ナノバブル水の効果だと感じている。」

■千葉県（ミニトマト）
ハーモニーファーム様
[使用開始：2022年7月]



「毎年、夏場の高温期に葉色が落ちて困っていたので、何か良い資材が無いかと探していた。試しと思いい始めてみると1週間程度で回復をし、その後の収獲影響が少なく回避できたので、これは何か違うと感じ、直ぐに装置を購入した。水も肥料も吸収性が良くなるんでしょうね。」

■香川県（いちご）
多田様
[使用開始：2012年10月]



「根がしっかりと張り、株がしっかりと育ち、収量が落ちないので、使うのが当たり前になっている。後半の品質も味が落ちずに満足している。シーズン終了後に培土を耕耘するが、耕耘機が止まるほど根量が多くて驚いている。培土の少ない『らくちん栽培（袋培地）』には特に効果が大きいと感じる。」

■神奈川県（いちご）
神崎様
[使用開始：2015年8月]



「定植後から使用開始したが、根の張りが良いと感じた。株の勢いも強く、収獲量も多かった。翌年は比較するため、使用を止めてみて効果を実感し、製造装置を導入した。後半（5月～6月）の実が固くなった。実が出来すぎて手が回らないこともあるので、使用量と収獲量のバランスを考えて使っていきたい。」

■神奈川県（いちご）
高橋様
[使用開始：2014年7月]



「育苗時に区画を分けて使用してみたところ、二週間後の成長差に驚いた。その年の定植から本格的に使用したが、前年度より20%程増の収量が得られたのでナノバブル水製造装置を導入した。株がしっかりとすることで、病害虫に強くなったと感じている。今では使わないのが怖いほどで、ナノバブル水なしの栽培は考えられない。」